カレッジ通信

編集・発行
東京建築カレッジ

授業見学
大歓迎！
TEL 03
(5950)
1771

私が競技大会チャレンジを続ける理由

東京都連青年技能競技大会に7回出場

第20期生　小林 貴志さん(建築大工)に聞く

「四方転び踏み台」製作で精度と美しさを競う「全建総連　全国青年技能競技大会」。その東京予選会「全建総連　東京都連青年技能競技大会」が8月18日、都内で開かれました。本校からは卒業生2人が出場、その1人、同大会7回目の出場の小林貴志さん（第20期生）に頑張り続ける理由を聞きました。

私が挑戦し続ける理由は、職人として「できるけどやらない」と「できないからやれない」はまるで違う、と考えるからです。自分の技術を高めていけば、難しくやりがいのある仕事が来た時に力を発揮できます。

◆「四方転び踏み台」の魅力とは、難しさとは。

普段あまり使わない鑿（のみ）や鉋（かんな）を存分に使えるところが非常に魅力的。すべてが化粧仕上げになっているので、気を抜くところがなく0・1ミリの差が出来栄えを左右します。

◆この課題を授業で学ぶ2年生にメッセージを

建築はスポーツと似ていて、経験が非常に重要。初めて作るときは図面や課題をすべて理解することは後にして、先生が言ったことを全力で取り組むと良いと思います。きれいに作ることはまだ難しいので考えなくても良いです。でも、道具の手入れはきちっとしなければなりません。

◆電動工具の普及で手道具使いを極めなくてもいい、という意見があります。

確かに手道具を使わなくても仕事はできます。しかし、使えるに越したことはないと思います。そもそも手道具を必要とする仕事が非常に少ないのは事実です。

そういう問題ではなく、うまくいかなかった原因を明らかにして、それを克服する繰り返しが仕事においての問題解決の思考訓練になるのではないか、と思うのです。だから仕事には非常に役に立ちます。階段の取り付けやフロアの突き付け、造作の棚などをいかに速くきれいに楽に製作するか、この考える訓練がとても重要です。

◆今回は残念な結果でしたが、この競技大会に挑戦し続けられるエネルギー源は何だと思いますか？

一つは、死ぬ程に努力をしたら自分はどこまで行けるのか知りたいと思っているからです。もう一つは、もうひとつは自分よりも若い人たちの苦労を減らしたい、という思いがあります。やみくもに頑張っても努力の方向が間違っていると結果はついて来ません。その方向を指し示せる人がいれば若い子たちは余計な迷いがなくなるため非常に楽だと思います。自分がそのような存在になりたいと思っています。

最後の理由は、単純に楽しいからです。何かに取り組み、うまくいく、いかない、それを踏まえてまた取り組む。それによる前進と成果を確認する。これがとても楽しいのです。■

競技最終盤、調整中

第27期生　岩本さん銅賞

「全建総連東京都連 第38回青年技能競技大会」

8月18日、東京都立多摩職業能力開発センター府中校でおこなわれた「全建総連東京都連 第38回青年技能競技大会」で、東京建築カレッジ　第27期生の岩本将希さん（堂宮大工、下写真左から3人目）は第3位、銅賞でした。金賞、銀賞の選手とともに、9月15日競技実施の第40回全建総連全国青年技能競技大会（愛媛県）に出場し上位入賞をめざします。

同大会の競技課題は10分の3勾配の四方転び踏み台。精度と美しさを競います。なお、今回の東京予選会は出場選手数は8人で、コロナ禍で緊急事態宣言が出された直後の2020年度大会と並ぶ少なさでした。出場選手数を増やすことが今後の課題となっています。

1年生の授業から

「建築社会論」でジャーナリスト志葉玲さんの特別授業「地球温暖化と戦争」

再生可能エネルギー普及の意義を強調する志葉さん

東京建築カレッジは、広く世界と人間を見つめて自主的に行動できる建築従事者の育成をめざしています。この観点から教養科目を充実させています。ゲスト講師による「建築社会論」はその一つ。

8月23日にはジャーナリスト　志葉玲さんによる「地球温暖化と戦争」と題した特別授業を実施しました。

○　○

志葉さんは「地球温暖化による気候変動は緊急事態なのに、それに見合った報道がされていない」「ゲリラ豪雨の増加の背景をしっかり解説すべき」と日本のマスメディアの問題点を指摘、「このままだと地球上に暑くて人が住めない地域が広がる。人口の移動と食糧危機、水の奪い合いが激しくなる。北極圏の氷の溶解も重大な影響を及ぼす。待ったなしの段階」と説明しました。

CO2を削減する有効な対策として再生可能エネルギー普及の意義を強調、農業用地に太陽光発電設備を設置し、農業と再生可能エネルギーを同時に生産するシステム「ソーラーシェアリング」などを紹介しました。

授業の後半では、ウクライナやパレスチナ・ガザ地区の今を伝えながら、「日本国憲法前文の精神が今こそ大事だ」と語りかけました。

1年生の一人は「日報」に「地球温暖化が戦争の火種になるという話はかなり現実味がある。建築業でできる環境対策は何か、考えるきっかけになった」と書きました。

2年生の授業から

個人課題で奮闘中「規矩術演習」

競い合い、励ましあいながら課題に取り組む

2年生の実技実習は8月から「規矩術演習」に。枡（ます）、朝顔箱、風呂イス、四方転び踏み台、化粧棒隅木の順で伝統的な大工実技の課題に挑戦します。勾配の取り合いなどに数学的な理解力が要求される上、道具の状態が出来栄えを大きく左右します。

制限時間内に課題が終わらなければ、放課後に居残り作業しなければならないことも。「厳しさは伴いますが、そこから得られるものは多いはず」と担当指導員。

8月24日の授業は四方転び踏み台の図面作成。9月いっぱい競技大会の課題にカレッジ生の全員が挑戦します。授業見学を歓迎します。

来年４月入学生（第30期生）募集中！
授業・学校見学歓迎！
お問い合わせはお気軽に！！

学校紹介・募集要項はこちら⇒

5年ぶりに納涼会

「スイカ割りをやりたい」２年生の一人から声が上がり実施しました。

東京建築カレッジは8月10日、池袋校舎で5年ぶりの納涼会をひらきました。2019年度まで毎年8月の授業日の放課後におこなっていました。今回は2年生、第28期生の有志が大活躍。スイカ割りやカレッジクイズ大会などのイベントも盛り上がり、在校生同士や先生方との交流を深めました。

進行や運営は２年生が担当。カレッジクイズコーナーも作りました。 景品の中には片岡茂樹先生のとっておきの手道具も。